2019
12
Vol. 35

東北工大建築学科 通信

Monthly Report of Department of Architecture

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

発行：東北工大建築学科　学科長　石井敏

Pick Up News

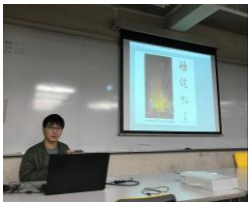
早いもので12月、年の瀬を迎える頃となりました。一年間を振り返ってみてください。新年を迎えてから、成人式、定期試験、春休み、就職活動、課題の提出、研究室配属、論文や設計への取り組み・・・あっと言う間の一年だったのではないでしょうか。同じことの繰り返しのような大学4年間ですが、同じところをぐるぐる回っているわけではなく、時は螺旋状に上に（前に）歩んでいます（そうでなければならないですね）。同じことを繰り返しているようですが常に新しい課題に直面し、それを乗り越え、成長し、前とは違う自分がそこにいることと思います。1年前の自分と重ねあわせて見てください。こんなことができるようになった、分かるようになった、と実感できることが多くあるはずです。成長したと感じる手応えを得るには、乗り越えなければならないハードルも高くなってゆきます。進路や学習面で、思い悩むこともあるでしょう。そんな時は遠慮なく教員やサポートセンターに相談して下さい。今月も学生の活躍のニュースが飛び込んで来ました。おめでとう！　皆さんのさらなる活躍を期待します。

「二級建築士」・「宅建」合格！

在学中に取得することができる2つの国家資格において合格者が出ました。大学卒業後、大学院在学時に受験可能な「二級建築士」。令和元年度の合格率は22.2%の難関資格です。見事、大学院（M2）在籍の堀金照平くん（福屋研）と、小野寺紗希さん（薛研）が合格しました。おめでとう！また、「宅建」（宅地建物取引士）では、現時点で把握している限りでは2年生小和田将也くん、4年生濱田敬次郎くん（最知研）と今野祐舞くん（中村研）、大学院M2の堀金照平くん（福屋研）と一條武寛くん（福屋研）が見事合格！令和元年度の合格率は17.0%でした。堀金くんは二級建築士とあわせてのダブル合格、小野寺さんもすでに学部時代に宅建士を取得済で、それに加えての二級建築士合格です。大学としても、また建築学科としても資格取得を応援し、講座を開設をしていますが、日々の課題や卒業研修、修士設計等を進めながらの資格取得はそう容易なことではありません。その努力を大いに称えたいと思います。来年度からは建築士法改正で、工業高校出身者は学部在籍時に、また一級・二級建築士は大学卒業後に受験可能となります。

卒業設計および修士・博士論文・設計の中間発表実施

卒業論文の中間発表はすでに行われましたが、引き続いて卒業設計の中間発表（11/27）、修士・博士論文・設計の中間審査（12/4）が開催されました。中原大学からの留学生3名も自身の卒業設計の計画について発表し、中国からの留学生として学んでいる喬文琪くん（竹内研D3）も博士論文の中間発表を行いました。卒業設計の提出は1月下旬、2月6日（論文）と7日（設計）に発表会、修士・博士の論文・設計の提出は2月中旬、2/19に発表・審査となっています。大学時代の4年間、大学院生（修士）は6年間の集大成となります。ここからが正念場となります。風邪を引かずに頑張ってまとめ上げて下さい。



北欧ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究所による講演会開催（所長：建築学科石井敏）

11月30日に本学の北欧デザイン研究所と仙台フィンランド健康福祉センターとの共催による講演会が開催されました。日本フィンランド修好100周年記念イベントとして開催されたものです。60名を超える参加者がありました。基調講演はヘルシンキ生まれで、テレビ番組等でも出演が多い坂根シルック氏による講演で、ご自身の経験を踏まえた子育て・働き方・教育・ライフスタイル等についての内容でした。北欧デザイン研究所所長をつとめる石井教授からは、フィンランドの建築やデザインについて、最新の話題や事例を通しての講演がありました。講演会の様子は、建設専門の2紙（左：建設通信新聞、右：建設新聞）にも記事掲載され、大きな注目を浴びました。さまざまな面で注目を浴びる北欧・フィンランドですが、「フィンランドで34歳の女性首相が誕生！」というニュースが（12/9）飛び込んで来ました。

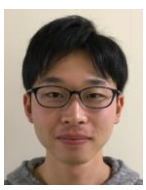
暮らし支える建築とデザイン解説

Pick Up Lab.

建築学科サポートセンターは、学習面、生活面における学生の抱える様々な問題について対応することを目的として設置されました。学生の抱える様々な問題について、建築学の幅広い分野に対応したスタッフが学科教員との橋渡し役になってフォローをします。普段は、物品の貸し出しや課題の印刷、落し物の連絡など幅広く学生のサポートを行っています。とくに設計課題の提出前には毎回多くの学生が訪れており、建築学科の学生なら年に数回は利用する場所となっています。様々な問題について気軽に質問、相談できる場所となっているので、何かあればまずは「サポセン」へお越しください。

サポセンスタッフによるサポート

3階ラウンジでの学生滞在


4年 佐藤　匡 くん
東北学院　高校　出身

Pick Up Student

気が付けば4年目。今思い返すと、あっという間の出来事でした。普通科の高校だった私は、専門知識も無く、やっていけるのか不安でしたが、想像以上に設計などの物作りが面白く、いつの間にか不安が楽しみに変わりました。2年目に入り、何か新しい事に挑戦してみたいと考えていた時に出会ったのが「民家再生ワーキンググループ」です。ここで私は、地域の方々との活動を通して、ただ楽しいだけでは無く、様々な事を考えさせられるとても貴重な体験をすることが出来ました。私にとってこの３年間の大学生活は、とても有意義なものだったと思います。この経験を生かし、これからの卒業研究に取り組んでいきたいです。

2年 大友 侑果 さん
聖ﾄﾞﾐﾆｺ学院　高校　出身

Pick Up Student

課題、アルバイト、サークル活動に追われ何も用事がないほど忙しい日々を過ごしています。課題が終わらず毎日のように徹夜をするのは辛いですが、新しい知識を得て理解できたとき、達成感に包まれ建築学科に来てよかったと感じます。普通科の女子高校出身のため、入学時は建築の勉強についていけるか、友人関係を築けるか不安がありました。現在は優しい友人や親切な先生方に支えられ、とても楽しく大学生活を送ることができています。日本建築は技術やデザインなど世界から注目を浴びています。これからの大学生活で日本の建築技術を生かし、現代の生活スタイルにあった建築を造るにはどうしたらよいか学んでいきたいです。